



地域で

子どもたちを 育もう！



「遊べない」子どもたち

—あやせつ子ふれあいプラザ綾南（神奈川県）—

「子どもが育つ放課後の居場所
づくりフォーラムinかながわ」
（2009年12月13日開催）で

バナリストを務めた、綾瀬市立
綾南小学校の「あやせつ子ふれ
あいプラザ綾南」運営委員長林
孝司さんを訪ね、地域のボラン

ティアによって支えられる、綾瀬市放課後子ども
教室の様子を伺った。

（取材・文／井上 達也）

あやせつ子ふれあいプラザ誕生のきっかけ

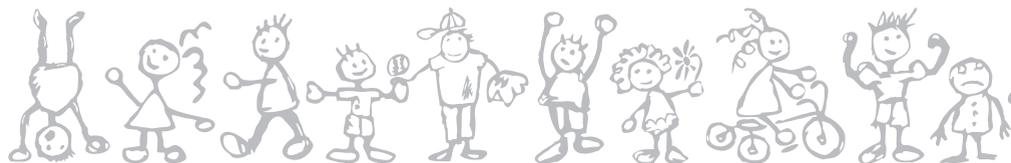
あやせつ子ふれあいプラザでは、子どもたちに
学校の宿題をプラザ内で決してさせない。取材の
日も1年生が体育館で宿題をやるうとしたが、
「ここは遊ぶ場所ですよ」とパートナー（地域の
ボランティア）が優しく声をかけていた。



あやせつ子が誕生したきっかけは、1996年
に市が実施した「放課後の過ごし方調べ」の結果
である。小学校の児童のうち約8割が塾やスポー
ツなどの習い事に通っており、そのうちの約4割
の子が遊ぶ時間がないと答えた。また、約半数の
子と同じクラスの児童としか遊ばないとの結果も
出た。これを受け、
綾瀬市は、通い慣れ
た学校で「遊び場」
「仲間」「遊ぶ時間」
を確保し、子どもの
社会性、自主性、創
造性を養うことを目
的に、98年6月に市
内すべての小学校で、
あやせつ子ふれあい
プラザを開設した。

この日転校してきた児童を誘って
鬼ごっこが始まった





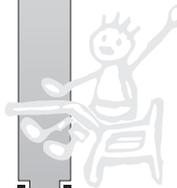
遊べなくなった子どもたち

「今の子どもたちは3つの点で遊べないですね」と林さんは語った。まずは、塾通いで時間がなくて遊べない。また、自分中心で遊べない児童もいるという。例えば、低学年と遊ぶ時に力を加減しなければならないと「つまらない、もう来ない」と言う高学年も。そして、工作をやる時に、道具を使えない、ねばりがなくて形を作れないなど。

最近の子どもは遊びの能力が弱ってきたと、林さんは感じている。そこで、普段はあえてプロگرامを組まずに、子どもたちが自由に、自立して遊べるようにしている。取材した日もバスケットボールや野球、鬼ごっこ、一輪車、マット遊びなど、体育館やグラウンドを使って子どもたちは思いにはつらつと遊んでいた。

地域の協力を得て

あやせっ子ふれあいプラザ綾南では、好きな時



に子どもたちが自宅へ帰って行く。子ども

もたちの登下校を見守っているのが「防

犯ワイワイパトロール」である。ワイワ

イパトロールは、地元小学校の学区内の

自治会約3100所

帯のうち200名が参加するボランティア

アで、定年を迎えた65歳から70歳ぐらいの高齢者が中心となっている。「子どもたちと顔見知りになることで、休日などでもお互い挨拶するようになり

ました」とは林さんの言葉である。

あやせっ子の運営を支えているのは、パートナーと呼ばれる、有償のボランティアたちであるが、この方々もまた学区内に住む地元の方が中心となっている。綾瀬市の放課後の子ども居場所は、

地域の方々の温かい手によって支えられている。



防犯ワイワイパトロールの皆さん
男女の比率は6対4で男性が多い